

❖ 科目名 Course Title			
社会の認識 アフリカ学入門			
❖ 担当教員 Instructor			
鍋島 孝子			
❖ 開講学期 Semester	前期	❖ 対象学年 Year	1～
❖ 履修可能人数 Capacity	制限なし (遠隔) 制限なし (対面)	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class	講義		

❖ キーワード Key Words			
アフリカ、国際政治、国際経済、地域紛争、社会問題			
❖ 授業の目的 Course Objectives			
❖ 授業概要 Course Description			
現代のアフリカを理解するために多角的な視点を提供する。教員の専門は国際政治学であるが、人類学、社会学、歴史学、文化論、経済学などのアプローチも試みる。現代のグローバル化の時代の中、日本から地理的、歴史的に遠いことを理由に、アフリカについて無知であることは許されるのか。アフリカの人々は何にどのように苦しんでいるのか。その苦悩の原因は、実は国際政治経済の構造的要因に端を発することがある。受講者はこういった問題提起を自らのアプローチから追求することが求められる。			
❖ 到達目標 Course Goals			
アフリカの1国に興味を持ち、講義によって得た理論や知識を駆使して、その国の問題の所在がどこにあるのか追求しようとする態度がレポートに見られること。アフリカの実情を調査する能力と、分析・洞察する能力が問われる。			
❖ 授業計画 Course Schedule			
基本的に講義形式をとる。第7回と第8回の発表会では、各国事情をグループ学習によって発表してもらおう。			
第1回 授業概要とビデオ			
第2回 アフリカの地理と文化			
第3回 帝国主義と植民地			
第4回 パン・アフリカニズムとナショナリズムの形成			
第5回 独立運動と国家建設：アフリカ的社会主義体制			
第6回 冷戦期のアフリカ紛争(コンゴ独立紛争、アンゴラ・モザンビーク、ソマリアなど)			
第7・8回 各国情勢の分析方法の講義と学生によるグループ発表会			
第9回 アパルトヘイト			
第10回 IMF世銀の構造調整			
第11回 民主化			
第12回 農村生活の変容			
第13回 現代の紛争:民族問題とPKO (ルワンダ、コンゴ東部紛争、コート・ジボワール、リベリア、シエラレオネ、スーダンなど)			
第14回 難民・教育・エイズ問題			
第15回 特別講師を招いての討論会			
❖ 成績評価 Grading System			
授業参加度(20%)と、第7、8回の授業におけるグループ発表(30%)、さらに指定図書のうち1冊を読破した後の期末レポート(50%)により評価。			
❖ テキスト Textbooks			
特になし。			

❖参考書Reading List 食と農のアフリカ史：現代の基層に迫る / 石川博樹、小松かおり、藤本武 編：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2016，ISBN:978-4-86337-222- 解放と暴力：植民地支配と北大アフリカの現在 / 小倉充夫、船田クラセンさやか：東京大学出版会，2018，ISBN:9784130302104 アラーの神にもいわれはない ある西アフリカ少年兵の物語 / アマドゥ・クルマ(真島一郎訳)：人文書院，2003，ISBN:4409130269 アフリカから学ぶ / 峯陽一、武内進一、笹岡雄一 編：有斐閣，2010，ISBN:978-4641049864 ルワンダ・ジェノサイド生存者の証言：憎しみから赦しと和解へ / ジョゼフ・セバレンジ、ラウラ・アン・ムラネ：有斐閣，2015，ISBN:978-4-901988-28-5 森棲みの生態誌：アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 / 木村大治、北西功一 編：京都大学学術出版会，2010，ISBN:978487698
❖準備学習Homework 日頃から、参考文献の指定図書を読んだり、アフリカに関するニュース報道に触れるようにすること。復習として、講義内容のポイントからアフリカ情勢の特徴を理解すること。アフリカの時事的な動きも含めて、質問を受け付ける。
❖オフィスアワーOffice Hour
❖連絡先 (E-mail) E-mail
❖質問・相談への対応方法Contact Information
❖履修上の注意Notes
❖備考Other Information 随時、アフリカについて解説した論文を紹介する。

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外の人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。